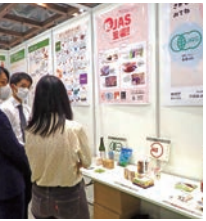




新たな発見！ FAMIC 公式Facebook



公式Facebookは2021年4月に開設し、2024年で4年目を迎えました。これまで、FAMIC職員ならではの視点で、FAMICのホームページでは紹介しきれない食品や農業、FAMICの業務に関連した内容を発信してきました。今回は、過去の投稿の中からイチオシの記事をご紹介します。

職員独自の視点で発信！



多種多様な記事は、広報課職員と各部署の有志メンバーが中心となって作成しています。

有機の日の投稿
～担当者、心の一句～
「有機酒で辛口上司も甘口に」

毎月8日は有機の日です。ご存知でしたか？
2022年10月から、有機酒類も有機JASの対象となりました。
お店に並ぶ有機酒がこれから少しずつ増えてくるのが楽しみです。

季節のお花紹介



パクチーの花

季節のお花紹介シリーズでは、おもに東京都小平市にある農業検査部に咲くお花の紹介をしています。

「パクチー」といえば葉が思い浮かびますが、乾燥させた実は「コリアンダーシード」と呼ばれることが多く、カレーなどにスパイスとして使われます！



実は茶色く乾燥すると、スパイス（コリアンダーシード）になります

懐かしの?レトロアイテム



2022年、FAMICは15周年*を迎えました。その記念として、旧庁舎やレトロなアイテムに注目して、過去を少しだけ紐解きつつ、FAMICをご紹介します企画を行いました。ここでは、この15周年企画シリーズに登場したレトロアイテムたちをお楽しみください。

*FAMICは、3つの独立行政法人（農林水産消費技術センター、肥飼料検査所、農薬検査所）が2007年に統合して誕生し、2022年で15周年を迎えました。

輸出検査の合格印



印面のくぼみに、検査年月日と検査官の固有の番号を入れ押印します。



印影。
JAPANESE GOVERNMENT
(日本国政府)の文字がありました。

農林水産消費技術センターの前々身は、輸出品検査所でした(1951年(昭和26年)設立)。緑茶をはじめ、乾しいたけ、うんしゅうみかんといった農産物や魚粉、寒天などの水産物、珍しいところでは「バックンサナダ」(麦わらを平たくつぶし、真田紐のように編んだもの)なども輸出時に検査していました。いずれも、粗悪な産品を輸出しないという視点で基準が設けられていたようです。

肥検回報

戦後まだ物資不足の頃、肥料の需要が増えつつある中で、粗悪な肥料を販売する悪質な業者を取り締まるため、肥飼料検査所の前身の一つである、肥料検査所が設立されました。肥料は肥料取締法で規制され、その取締りは当時の農林省職員と都道府県職員で実施していました。肥検回報は、これら職員間で相互に情報共有するために、1948年(昭和23年)7月に創刊し、配布されていました。

発行部数の減少などの理由から、
2001年(平成13年)3月発行の
273号をもって廃刊となりました。



農林省農薬検査所の看板

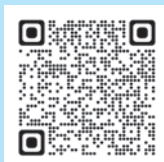


終戦直後の復興期、食糧の増産が何よりの急務で、農業資材の確保が必要とされましたが、農薬の不足で町には粗悪なものが出回っていたようです。そこで、農薬の品質の確保を図り、農業生産の安定に資することを目的とした農薬取締法が1948年(昭和23年)に制定。それに先立って農薬取締法に基づく農薬の登録検査(現在は登録審査)と取締りを行う機関として、農薬検査所が1947年(昭和22年)に設立されました。

公式Facebookのご紹介はいかがだったでしょうか。
さらに知りたい方は、FAMIC公式Facebookを検索し、投稿をご覧ください。

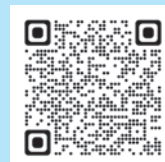
4月から開始した公式Xも、併せてご覧いただくと幸いです。

Facebook



<https://www.facebook.com/famamimic/>

X



https://x.com/FAMIC_JAPAN